

本が泣いている part2

2009/12/10-2010/1/23

言うまでもなく図書館の資料は、利用するためにあります。

同時に大切な資料を後世の人たちに遺すことも、図書館の使命です。

「利用と保存」この相反する2つの命題を前に、図書館はさまざまな問題に直面し、対応しています。

この展示で私たちは、図書館資料の現状を多くの方に知っていただき、利用者の方たちの協力を呼びかけます!!

- ★日本図書館協会から借用した資料保存のパネルは、保存環境や災害による本の窮状を訴えます。
- ★展示ケースでは、まず、環境による本の被害、注意すれば避けられた本の被害を展示し、
- ★次に、メディアセンターで行っている資料への保護や補修、燻蒸を紹介します。

永く資料を利用していただくために、一人でも多くの方に「本が泣いている part2」を見ていただければ、幸いです。



本が泣いている!!

- ∞茶色く変色し、形すら留めなくなっていく用紙の酸化
- ∞湿気や結露で、カビが発生
- ∞虫の食料、住処になったら本は被害甚大に
- ∞小動物に齧られたり糞尿をかけられたり、鼠も本の大敵
- ∞前触れなくやってくる天災
- ∞書き込みをしたり、飲み物をこぼしたり、これは人災

本にやさしく!! ~ 今できることから ~

- ∞書庫の温湿度の調整・燻蒸、資料の修復、中性紙の保存箱に収納、メディアに変換し提供・・・図書館も頑張ります!!
- ∞お願い・・・本はみんなのもの、本を片手に無意識にしていることに、ちょっと注意を!!

本が泣いている！ —破損本特集—

最近、多くの図書館で破損本が問題になっていることをご存知ですか？



参考文献：『朝日新聞』

- (1) 2007. 4/7 朝刊 27ページ 三重全県
- (2) 2008. 1/22 朝刊 26ページ 広島1

- (3) 2008. 2/22 朝刊 26ページ 山口
- (4) 2008. 2/28 朝刊 28ページ 神奈川全県

★展示場所 11号館1階エントランスロビー 展示ケース内

★展示期間 5月26日(月)～7月5日(土)

大崎学術情報サービス課

本が泣いている！ ー破損本特集ー

最近、多くの図書館で破損本が問題になっています。この問題は、立正大学情報メディアセンター（大崎図書館）も例外ではありません。壊れてしまった資料、書き込みをされている資料、ページが折られたり、切り取られたりしてしまっ資料が発見された場合は、図書館内外で補修されます。



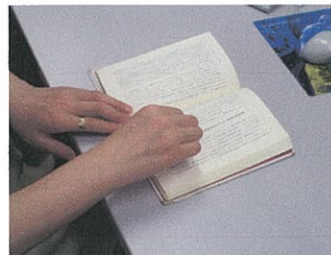
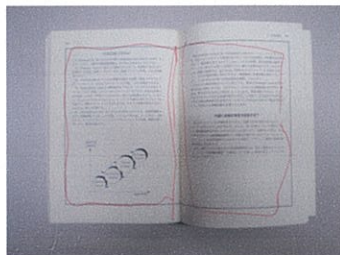
背がはがれてしまった資料



糊で貼り付けて固めるなどの補修を施す



マジックなどで書き込まれた本



消しゴムやインク消して消す



図書館でしきれない場合、外部の業者へ補修を依頼しています。補修を施すためには、当たり前ですが利用できない期間が生まれます。さらに、購入したときと同じ状態で帰ってくるわけではありません。資料を傷つけることは、利用者にとってもリスクの伴うことなのです。

図書館の資料は、多くの利用者へ貸し出されています。図書館には、絶版になり手に入らない資料も多数所蔵されています。図書は、図書館にとってはもちろん、大学全体にとってもかけがえのない財産なのです。その財産を長く保存し、よりよい状態を維持するためには、利用者の方々の協力が必要とされます。また、こうした行為は、「器物損壊」（刑法261条）にあたると言われています。

資料は、大切に取り扱いってください。それがいつまでも資料を利用するために大切なことです。

★展示場所 11号館1階エントランスロビー 展示ケース内

★展示期間 5月26日（月）～7月5日（土）

大崎学術情報サービス課